

資料 2 - 3

令和3年度のテーマと論点

令和3年度のテーマと論点

◆ 国内全体の温室効果ガス削減の目標

(1) 【中期目標 (2030年度46%減 (2013年度比))】

(2) 【長期目標 (2050年度までに実質排出ゼロ)】

に対して、下水道分野としても目標を設定して取り組む必要がある中で、

(1) に向けて、効果的な技術を再整理

(2) に向けて、どこに技術開発の余地があるか等を確認

し、国としての方向性を示す参考とするため、エネルギー分科会において、議論したい。

◆ 主として下記について、分科会委員より、意見、アイデアを頂戴したい。

① 下水道の温室効果ガス排出削減対策の“柱” (対策の要素) とも言える

省エネ、創エネ、N₂O対策のそれぞれについて、これまでの取り組みの
評価とこれから取り組むべきこと

② 下水処理過程の中で、特にシステムとして効果が発揮される対策について、

これまでの取り組みの評価とこれから取り組むべきこと

③ 上記以外にも、これからの対応として、念頭に置くべきこと

令和3年度のテーマと論点

下水道分野の削減目標（2030年度目標）も含めた地球温暖化対策計画改定案が示され、また、「下水道政策研究委員会 脱炭素社会への貢献のあり方検討小委員会」（以下「脱炭素小委員会」という。）の議論が始まったことから、前頁を念頭に置きつつ、

（1）については、

「具体的にどの技術分野をどの程度活用することによって、目標の達成が可能となるか」、「さらなる高みに向けた取り組みの可能性はあるか」等について、議論していくこととしている。第一回分科会では、主に下記の技術的課題と取組の方向性を提案する。

- ①省エネの取組
- ②創エネ・再エネの取組
- ③下水汚泥焼却に伴い発生する N_2O への対策の取組
- ④水処理に伴い発生する CH_4 、 N_2O への対策の取組
- ⑤技術開発の動向
- ⑥下水道のシステム最適化

令和3年度のテーマと論点

(2) については、

脱炭素小委員会の主要論点「地域社会全体を捉えた上で、温室効果ガス排出の徹底した削減とともに、更なる資源集約や連携強化を通じたポテンシャルの最大活用による、新たな利用可能性の追求、貢献拡大をどのように図るべきか？」を踏まえ、

下水道分野の他に、他分野の技術開発の動向についても把握しつつ、今後の下水道において期待される技術開発について、議論していくこととしている。 第一回分科会では、課題や取組の方向性を検討、整理する。

本分科会の検討事項については、下水道技術開発会議及び脱炭素小委員会へ報告をする予定。